

参考資料 1

No	カテゴリ	委員	意見	今後の対応方針
1	誘致・広報	小田	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の人にはいかにして関心を持ってもらうかが課題。特に老年寄りや子どもは関心が薄いと感じる。 知事自らが、SNS等に親しみの無い年齢層に向けて TVCM 等で PR すると効果があると思う。 	<p>《観光政策課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンペーンがスタートしてから、これまで観光客の受入がなかった地域に人が来るようになるため、そのあたり気を付けなければならない。TVCMに限らず、今後考えていく。
2	誘致・広報	福井	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラム等 SNS を活用した情報発信のなかで、映像の持つ力が大きいと感じている。 ・高知には世界に誇ることができる映像スポットがたくさんあるので発信しないのはもったいない。特に夜間、高知でしか見られない絶景がたくさんある。夜光性のキノコ「ギンガタケ」や、海で夜に光るプランクトンなども観光素材のひとつになると思う。もっと県をあげて大々的に発信・拡散してはどうか。 ・SNS や WEB サイトのなかで、県内の写真家に依頼した高知の絶景スポットを紹介する「絶景高知」といったコンテンツを作り、映像を活用した PR を行ってはどうか。 	<p>《観光政策課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像の活用については、著名な写真家・佐藤健寿氏が高知の風景などを撮影した写真展示を、とさてらすやまると高知で4月から6月にかけて実施したところ。 ・今後も、フォロワー獲得に向けたフォトコンテストの取り組みといった SNS での写真活用など、幅広く SNS や特設サイトを中心に発信していきたいと考えている。
3	誘致・広報	眞田	<ul style="list-style-type: none"> ・asoview!本サイトでは140以上のコンテンツが掲載されていたが、キャンペーンサイトに紹介されているのは44件。今後増やしていく予定なのか。 	<p>《観光政策課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かきいれ時となる夏に向けて、増えていくことを想定している。磨き上げ・作りこみの作業も同時に行っているため、旅行商品を OTA サイトに登録していけるよう導いていきたいと考えている。

参考資料 1

4	受入	井土	<p>・バスに自転車を乗せ、山間部や林道でのサイクリングを楽しめるようになればよいと考える。また、県内中心部から地域に向かう公共交通機関に自転車が乗せられるようになると、より多くのサイクリストが地域へと足を運ぶと考える。</p>	<p>《スポーツ課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型でお客さんに遊んでいただけるような、アドベンチャーの要素があるディープなコンテンツを一緒に作り上げていきたいと考えている。 ・規制等で難しいことであると思うが、乗降客数を増やす取組としても意味がある。鉄道だけでなく、バスなどの公共交通機関でも同様に自転車が積めるようになるよう検討する。
5	受入	大崎	<p>・私は、高知県サイクリング協会の理事をしている。東部のサイクリングロードは非常に優れているが、難点としては道がわかりづらい。またお遍路さんが歩いているので、接触等事故に対して不安な部分もある。</p> <p>・また、千葉では自転車をばらさずに列車内に積み込んで固定できる設備を導入している。今後の参考にすると良いと思う。</p>	<p>《スポーツ課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県推奨コース「ぐるっと高知サイクリングロード」の中上級者向け15コースについては、平成29年度から、サイクリストへの道路案内としてブルーライン・ピクトグラムの整備を実施しているが、全ての道に案内表示を行うことは難しい。 ・今年度、より安全で魅力のあるサイクリング環境の磨き上げのため、関係者の意見聴取を行い、その結果を踏まえ、要件を定めながら、順次整備を進めていくことを考えている。 ・サイクリングアイランド四国推進協議会で、四国4県からJR四国に、サイクルトレインの協力依頼を実施する予定
6	受入	大高	<p>・外国人が体験に訪れた際、言葉は通じないが身振り手振りで意思の疎通をはかり、スタッフのやる気が向上した。</p>	<p>《おもてなし課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内5エリアにおいて外国人観光客の受入スキル向上のための研修を実施予定。集合型の研修と各事業者への個別研修によりそれぞれの事業者に応じた形でのスキルアップを図っていく。

参考資料 1

7	受入	大高	<p>・国内国外関係なく、高知新港だけでなく須崎にも寄港できる体制は作れないだろうか。西部へのアクセスと滞在時間の向上につながると考える。</p>	<p>《おもてなし課・港湾振興課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎港は最大岸壁の水深が-10mであることから、高知新港に寄港している乗客4,000人級の大型クルーズ船の寄港は困難だが、乗客300人~400人級の「にっぽん丸」や「ぱしふいっく びいなす」などの日本船であれば寄港は可能 ・加えて、須崎港港湾計画（平成30年3月改訂）では、長期構想を受けた基本戦略として、①クルーズ船受入・誘致体制の構築、誘致コンテンツの開発、②既存ストックの有効活用を図りながら、大型クルーズ船等を誘致、することと位置付けている。 ・例えば宿毛湾港においては、宿毛市役所を中心に、観光協会や商工会議所など関係者が集まって受入体制等についての協議を行っており、そういった動きを参考に、須崎市においても市を中心とした地域の誘致・受入体制の構築を行うとともに、官民一体となった誘致活動などの機運を高めていただきたいと考えている。県としてもそういった動きに対して積極的に支援をしていきたいと考えている。
8	受入	秋山	<p>・人材育成が非常に重要。歴史名所を巡るのはまた違ったガイドやインストラクターが大事。観光協会や民間の体験施設等に属していたり、NPOやボランティアなど、形態も様々。観光案内所の機能強化とともに、人材育成のオペレーションが具体的にどのようになっているかお示しいただきたいと思っている。</p>	<p>《地域観光課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々なガイドやインストラクターについては、まずは嶺北地域で、市町村を通じて呼びかけを行い、専門家を招いた研修を6月に行うこととしている。

参考資料 1

				<p>《おもてなし課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所の機能強化の取組としては集合型の研修で課題の整理や解決に向けた検討などを行う集合型の研修を実施予定。一方、運営主体の違いなど、案内所によってスタッフの配置の状況や役割も異なることからアドバイザー派遣も活用しながら個別のフォローアップも実施していく。 ・観光ガイド団体についても集合型の研修会やアドバイザー派遣によりガイドスキルの向上に取り組んでいく。
9	受入	秋山	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通対策についても、継続して取り組んでいくべき課題だと考えている。 	<p>《地域観光課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次交通についても県内の交通関係の皆様のご協力により、維新博の時の企画切符等を基に商品を充実させ、順次展開しており、GW前には全ての準備が整い利用促進に努めているところ。
10	受入	筒井	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間の自然体験の取組について。今年度、県内企業旅行会社や宿泊施設と連携して、県外からのツアー客の誘致を試験的に行っている。ツアーだと一度に30名程度のまとまった入込があり、地域がにぎやかになる。体験コンテンツなども新たに追加されている。 ・一番重要なのは旅行会社とやり取りができるような、観光に特化したスタッフ。中山間地域において、旅行会社と連携してツアーにつなげられるような人材を求めている。 	<p>《地域観光課》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとにおける旅行商品づくりも、観光誘致のノウハウを持ったアドバイザーを派遣し、現場に入ってもらうことで地域の方々と一緒につくり上げていきたい。ぜひ今後活用していただきたい。 ・県内6ブロックの広域観光組織では、地域の観光資源を旅行商品化するための旅行会社へのセールス活動に力を入れているため、広域観光組織をぜひ活用してほしい。 ・土佐れいほく博の開催を通じて、地域の観光協議会等と旅行会社とのつながりが強化されていくと思う。また、集落活動センターの取組も協議会の皆様に認識してもらうことが大事。

参考資料 1

11	その他	井土	<p>・YASU 海の駅クラブは、香南市を拠点にマリンスポーツを展開している。観光客はもちろん、夜須の小学生たちも体験している。現在、教育委員会と連携し、地元の小学生が来た際には無料で体験ができるような取組を実施中。地元の子供たちが楽しそうに体験している様子を見てもらうことが一番のプロモーションになり、ひいては県外への情報発信、ガイド等の観光人材育成にもつなげていきたいと考えている。このような教育面における活動が、より広がっていくような取組を行っていければよいと考える。</p>	<p>《地域観光課》</p> <p>・地元の子供たちの受入によって地元の自然を知り、遊ぶことができるような環境整備が観光客向けのプロモーションとなり得ることから、今後も継続してほしい。</p>
12	その他	岡内	<p>・自然&体験キャンペーンでは、修学旅行生の役割は大きいですが、資料に現れていない。将来の顧客づくりのためにも具体的に手を打つべきではないか。</p>	<p>《地域観光課》</p> <p>・修学旅行生の誘致は非常に有意義。特に県内6ブロックの広域観光組織では修学旅行の誘致に力を入れているため、これらをより発信できるように取り組めればと考えている。</p>
13	その他	大崎	<p>・海外では、日本にセールスに来る際に事業者と一緒に訪れ、現地の方が何を求めているのかをリサーチする。そのような機会を仕組みの中に取り込んでいければより良いものを作ることができるのではないだろうか。</p>	<p>《国際観光課》</p> <p>・ぜひ事業者の皆様にも無理のない範囲で、一緒にセールスに行ければと考えている。また、県や四国ツーリズム創造機構が商談会等を開催する際にはご案内するので、参加をご検討いただきたい。</p>